

# 現代中国の新旧思潮を談ずる

毛沢東時代、鄧小平時代、江沢民時代の三つの時代を生き抜いた中国の碩儒が、人生最後の気迫に満ちた鋭利な言葉をもって、中華人民共和国成立以来の中国の新旧にわたる思潮を縦横に論じる。独自の自由主義の立場から、従来語られることになかった秘話を随所に交えつつ、中国の未来までを語りつくす。

李 慎之(元中国社会科学院副院長)

インタビュアー

加々美光行(愛知大学現代中国学専攻教授) 十 劉 志琴(元中国社会科学院近代史研究所中国史研究室主任)

司会

張 琢(元中国社会科学院現代中国学専攻教授)

## 李慎之先生最後のインタビュー

張 琢

二〇〇三年三月一四日に愛知大学現代中国学部の一行三人は中国社会科学院近代史研究所研究員の劉志琴女士と一緒に李慎之先生の住まいを訪れて座談会を行った。

李先生はすでに八〇歳に近い高齢でまた脳卒中を患っておられるため、長時間では疲れるので、座談会の形式を用い、途中皆が問題を出したり、また各自の考

えを述べたりして、李先生に休んでいただく機会を設けようと考えて、訪談と名付けた。豈にはからんや、我々が腰を下ろすやいなや、まだ録音の用意も調わないうちに、先生は長江の三峡ダムの水門を開いたように、滔々と論じ、天の定めに従うように語り始めた。個人から全世界まで、秦の始皇帝から毛沢東まで、現在や過去のことを論じては、意気軒昂

で豪放だった。他の人に口をはさませないだけでなく、先生自身時折自分の考えが本題からそれ、往々にして一つの論点をまだはつきりと述べ終わらないのにもた別の問題に飛んでしまった。もし触れている問題の背景や先生が文章の中で述べたことのある論述をよく知っていないと、ちよつと聞いただけでは把握するのも難しい。幸い、先生は話しながら、前もって準備していた自分の略歴から最近発表した主な文章の刊行物やコピーを一つ一つ示し、この訪問座談会の言葉の補

充として、我々に渡してくれた。これを見つめてから内容を理解する助けとして、先生の談話内容を完全に理解したのである。

三時間は飛ぶように過ぎたが、先生は見たところ語り尽くしていないようであり、我々も聞き続けていたかった。しかし心臓脳血管系の病を患っている病人であることを考えると、このような興奮状態を心配しないわけにはいかなかった。

予定していた時間が過ぎた後で、我々はやはりおいとますることに決めた。しかし李先生は直ちに話をやめようとはしなかった。杖をついて部屋の扉の外まで送り、さらに次のように付け加えた。「私は一九六三年に平和的転覆を主張した。平和的転覆は流血しないのが、最も良い」。これが老人が我々に残した最後の姿と声である。

愛知大学に戻って、今回の訪問座談会の記録を整理しているちょうどその時に、北京の劉志琴女史からの電話で、李先生が老人性肺炎で協和病院において逝去したとの訃報を聞いた。

本来、我々はこの記録を先生に送って、目を通してもらうことを予定していた。しかし今では先生はすでに長い眠りについてしまった。幸い、その時我々は先生の話の録音したし、先生が話している写真も写した。李先生の最後の正式な訪問座談会の記念としてさらに尊いものとなった。しかしながら李先生は話している間ずっと興奮状態にあり、考えが飛んだり、表現が簡単すぎたり、前後の話が合わなかったり、あるいは前後が矛盾したりして、その時の話の場面を離れると理解しにくい。そのため張塚が録音記録を校正するにあたり、李先生がかつ

て発表した文章を参考にして、若干の補訂を施した。また話の内容の中からキーワードを取り出して小見出しとし、読者が話の筋道をたどるのに便宜を図った。李先生が亡くなった後、この度の訪問座談会に参加した二名がそれぞれ文章を書き、席上言い尽くせなかったことを補足し、李先生への追悼として、この小特集を企画した。

なお、この文章は李先生の談話であるうと、他の参加者の発言や文章であろうと、すべて各自が自分の見解を述べたもので、本誌の観点や傾向を代表するものではないことをお断りしておく。

## ●インタビュー

二〇〇三年三月一四日午後二時―五時  
北京朝陽区華城西里八号楼二〇三室 李慎之宅にて

訪問座談会の初め、来訪者が自己紹介をした。李慎之先生は我々に「李慎之略

歴」をくださり、自己紹介とした。以下の通りである。

## 李慎之略歴

李慎之、もと中国社会科学院副院長。

一九二三年八月一五日江蘇省無錫に生まれる。一九四五年燕京大学経済学部卒業。一九四六年一月から一九五二年まで延安、北京新華通信社国際部編集。

一九五二年二月から一九五七年まで国際部副主任。一九五二年九月から一九五三年三月まで中国政府代表団のメンバーとしてポーランド、ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアの東欧六か国に文化教育事業の視察に赴く。一九五三年北朝鮮板門店で行われた北朝鮮・中国・アメリカの政府レベル交渉の中国側代表団顧問に任じられる。一九五四年ジュネーブ会議の周恩来を長とする中国政府代表団秘書に任じられ、一九五五年アジア・アフリカ会議の中国代表団団長周恩来秘書に任じられる。一九五七年末右派とされ、一九七九年一月になって名誉回復された。一九七九年二月鄧小平副総理訪米時の顧問に任じられる。一九八〇年から一九八八年ま



李慎之 [Li Shen-zhi] 1923.8.15—2003.4.2.....

で中国社会科学院アメリカ研究所創設に携わり、所長に任命される。一九八五年から中国社会科学院副院長。一九八四年一月趙紫陽総理訪米時の特別補佐に任じられる。一九八八年三月から第七期全国人民代表大会代表、第七期全国人民代表大会常務委員会法律委員会委員。一九九六年退職。

李慎之はかつて中華アメリカ学会

長、中国政治学会副会長、中国太平洋学会副会長をつとめ、現在、中華文化交流協力促進会副理事長、東方国際易学研究理事、中国文化書院導師。

李慎之は一九九三年にアメリカカウシルソンセンターの国際学者に任命され、一九九六年アメリカマサチューセッツ州理工学院 (MIT) の招待学者に、一九九九年アメリカケタリング基金招待学者 (Lombardo Fellow) に任じられた。

李慎之の目下の関心はグローバル化問題、中国文化研究と啓蒙思想研究である。

\* \* \*

### 三つの「新中国」

張 李先生、あなたの中国現代化の中の民主化問題についてのお考えは、中国内外で非常に注目されています。我々はとりわけこのことであなただをお訪ねし、座談会を開くことにしました。

李 現代化するには、まず中国の問題がいったいどこにあるのか、欠点はいった

いどこなのかを明確にしなければなりません。私にはこの文章がありますが（と言いながら、李先生は張琢に『太平洋学報』二〇〇一年第三期を手渡した。その最初の論文は「李中」と署名のある「中国の文化伝統と現代化」兼ねて中国の専制主義を論ずる」だったが、その場で「中」の字を「慎之」と改めた。以下（）内の文字はすべて張琢による注である）、私の文章は大陸では発表を許されないのです。中国のこの特徴は本当に大きいです。——中国は自ら民主国家と思っておりますが、このように言論の自由はありません。しかし現在は過去とはちよっと違ってきました。私たちの個人的な談話の自由は、すでに大変大きくなっていると思います。しかし公開発表する自由はありません。

現在人々は中国を「新中国」と呼びますが、実際には「新中国」の呼称はすでに何度か叫ばれてきました。少なくとも近代以来二〇世紀には三度あります。最初は辛亥革命後の一九一二年に成立した中華民国です。二番目は一九二七年国民

党の北伐後、我々が中学に入学した時の英語の教科書は『NEW CHINA』と書いて、多くの中学がそれを教科書としたのです。現在我々が言っている新中国は、すなわち一九四九年から始まったものです。私はかつてこう言ったことがありません。新中国は最も最も革命的思想と行動で、最も最も反動的暗黒統治を作り出した、とね。この統治は最後には中国の歴史上——毛沢東自身の言い方によれば「歴史上前例のないプロレタリア文化大革命」と表現されました。中国の歴史においてこのようなことはありませんでした。私のこの話にどんな根拠があるか、ですか。毛沢東自身がこれを証明しました。彼は自分で「私はマルクスに秦の始皇帝を加えたのだ」と言いました。私のこの文章は、中国の専制主義がほかでもなく秦の始皇帝から始まったということを述べているのです。

### 「封建論」の弁別と分析

李 秦の始皇帝以後の社会と云えば、私にはひとつ見方があります。現在の中国

国内の絶対的多数の人々とは異なっていますが。我々は現在長く一般的に流行した、実は間違いを伝えてきた概念で「封建社会」と呼びます。

張 その言い方は私も反対です。私は秦以後の中国の伝統社会を封建社会と言うのには賛成しません。なぜならば「封建」の原義はもともと「封土建国」とか「封土建邦」という意味だからです。西周時代の分封制こそが中国の封建制の典型的な形態なのです。商鞅が変法してから「井田制をやめ、あぜ道を開墾し」、きちんとした秩序がある封建制が破られ、崩壊し、これに地主——小農経済が取って代わったのです。秦の始皇帝以後は、君主宗法専制社会と呼んだ方がもつとびつたりするかも知れません。

李 些か歴史常識のある人、私のような年の、解放以前に小学校に通っていた人であれば皆「封建」という語を用いないはずです。共産党の政治勢力や政治教育の影響があまりに大きすぎたので、このような「封建」が降りて来たのです。私には中国の伝統的社会は専制主義としか呼

べないと思います。「封建社会」はありま

した。日本では明治維新以前は「封建社会」でした。例えば日本の歴史上の大名の統治や将軍幕府の統治が、天皇の下ではまさにそれでした。ただし天皇はただ名義上の統治者だっただけです。幕府の下では大名領主です。私は大阪に行った時、大阪城を見に行きました。石垣のどの石もすべて各郡県から送られたのですが、これはそれとは言えません。封建社会については、西洋人に研究がありまして、封建主義はもちろん専制ですが、大変緩やかなものでした。ですから封建主義は比較的容易にひとりでに資本主義を生み出し、中国の専制主義はあまりに厳しかったので、資本主義を生み出すことができなかったと言えます。しかし日本の資本主義もひとりでに生まれたものではなく、アメリカの軍艦が大門を開いて以後、やっと生まれたのです。もちろんその前にオランダ人がちょっと準備をしに來ましたが。私は中国社会の性質から見ると、毛沢東時代までずっと、今日までずっと、終始、前近代の中国だった

と思います。

毛沢東「秦の始皇帝に  
スターリンを加える」

李 しかし私が若かった時にはこのようには思っていないでせう。若い時には社会主義は最も革命的で、しかも最も民主的であり、共産主義社会の民主は資本主義の民主と比べてどれほど優れているか分からないと思っていました。私の思想の直接的な源は、中国共産党でした。具体的に言えば、中国共産党の最初の指導者である陳独秀がこのように言ったのです。もちろん陳独秀のこの思想はレーニンから來たものです。しかし中国が一九四九年以後実際に実行したのは「秦の始皇帝にマルクスを加える」ことでした。この「マルクス」ですがね、私はあまり適切ではないと思うのです。私は「秦の始皇帝にスターリンを加えた」と言うほうがよいと思います。秦の始皇帝にさらにスターリンを加えると最も専制独裁になるのです。

従順な道具論と「修養」

李 文化大革命以前に流行し始めた(雷鋒の)歌に、「支山の歌を歌って党に聞かせよう、私は党を母と思う」というのがあり、終わったばかりの第一六期全国人民代表大会でまたこれを提唱しました。雷鋒に学ぶことは政治の目的から言えば、良い人に学ばせようとしているのではなく、従順な道具にしようとするものだと思います。しかも従順な道具であることはですね、実際は秦の始皇帝から、法家から儒家まで、共産党まですべて一貫しているのです。文化大革命の時に造反を起こすために、従順な道具論を提唱したとする罪名を毛沢東は劉少奇の上に乗せてました。違います。従順な道具論の最高の源は毛沢東なのです。

劉 それは劉少奇の「共産党員の修養を論じる」の中で正式に提出した……

李 しかしあなたも御存知の「修養」というこの本は、「黒修養」ではなく、「文革」の大批判で「共産党員の修養を論じる」は「黒修養」といわれた)毛沢東が

最も称賛した本なのです。文化大革命は手を翻せば雲、手を覆せば雨、なのです。毛沢東はどうして共産党内の最高権威を得られたのか、かなりの程度、劉少奇の推戴によるものです。劉少奇は毛沢東の第一号の子分になりました。延安整風以後のことです。私は最近一冊の本を読み、かなり長い文章を書いてそれを紹介しようとして準備していますが、同時に作者とは異なる私の観点を提起するつもりです。この本は王若水の書いた『新発見の毛沢東』で、良く書いていると思います。しかし私は読み終わつた後で、彼はもともと執筆計画を持っていて、おそらく完成に少なくとも五年はかかるはずだと、気がつきました。惜しいことに彼は去年の今頃亡くなつてしまいました。彼はシリーズの文章を書くつもりで、彼の死後彼の妻（馮媛）がそれを上手にまとめました。おおむね毛沢東の形は出来上がっていますが、それは完璧な著作ではなく、本の中では主に毛沢東の権謀術数を述べています。それで私も私の印象をまとめますと、毛の一生は最も簡単に言えば、

次の一文で言えると思います。法も天も無く、生死を恐れず、「共産主義」に突き進んだ、とね。解放戦争の進度はまったく毛本人を含む人々の予想外で、三年ですでに蒋介石の八百万の大軍を打破しました。彼はたぶん社会主義もこのように早く建設できると思つていました。だから彼は大慌てで、とても早くあの「イギリスを超え、アメリカに追いつけ」を出しました。しかし一旦追いかけると誤りが現れました。同時にあいにくソ連共産党の第二〇大会にぶつかり、毛の最も敬服し、最もなりたい人物を倒してしまいました、そこそがスターリンです。毛の晩年にはですね、一つの宣伝（の話）を出して、それは毛がスターリンに特に反対したというものでした。違います。コミンテルンには鉄の規律があり、コミンテルンが一九四三年に解散するまでずっと中国共産党党章第一条で、中国共産党はコミンテルンの中国での支部であると規定していました。党には鉄の規律がなければならぬ、これはレーニンの言つた言葉です。共産党は当然鉄の規律

を守らなければなりません。厳格に言えば、鉄の規律は民主とは完全に相反するものです。しかし我々は皆その規律を守りたいと思つていました。中国伝統の儒家・法家は皆君主に忠誠でなければなりません。我々は自らまつたく新しい革命事業のためだと思ひこんでいました。だから中国共産党はこの鉄の規律を守りました。古代に比べてこれを超えて及ばないことがないと言うべきです。だから私はもう一言言いますが、中国では、実際は我々は、我々の当時の見方では、全世界で最も近代的な革命を進めたのですが、事が終わつて見てみると、最も反動的な復活でした。——いわゆるマルクス・レーニン主義の言葉で言えば、この転換を完成したのです。

私は知りませんが、日本では自民党に参加するのに宣誓が要りますか。自民党、公明党、日本の政党は……宣誓が要りますか。加々美 たぶんいらぬと思いますよ。李 きつとそんなことはないでしょう。例えばアメリカの政党は宣誓がありません

んし、しかも一つの党に参加した後で出ていくこともかなり簡単です。あなたはどこかの党派に参加していますか。

加々美 私はこれまで党派に参加したことはありません。私が思いますに、自民党も何の宣誓もないし、出ることも自由です。

李 しかし中国共産党は宣誓しなければなりません。国民党について私はあまりよく知りませんが、中華革命党(国民党の前身)は必ず宣誓しなければなりませんでした。すべて自分の自由を捧げ、完全に党からの指揮に従わなければなりません。およそ現代の政党は、このようなはずはないと私は信じています。例えばアメリカ人も、見解は同じです。私が民主党に票を投じれば、私は民主党です。次に私が共和党に票を投じれば、私は共和党なのです。

しかし話は戻りますが、私の今の観点には多くの人が賛成しません。その人たちはこう言うはずで、鄧小平の改革はすでに二十数年たった。しかし私は共産党の集権主義は、また「専制主義」と言

い改めることができるかも知れない、基本的には改まっていけない、人の守るべき道は変わっていない、すなわちマルクス・レーニン主義は変わっていない、ただ薄くなった、この薄くなったことが党章の中に現れているのだと思うのです。同時に実際のコントロールは、共産党がすべて握っています。毛沢東は「工・農・兵・学・商・東・西・南・北・中」の十字は

すべて共産党指導者の言うことを聞かねばならないと言いました。現在この一点に変化はありません。ただ離職したり退職したりした共産党員は支部会に参加しなくてもよいし、党費の半年分を渡さなくても党から除名されることがないはずで、しかも党の主流と異なった言論を發表してもよいのです。例えば私について言えば發表しています。

### 中国の現代化の目標は民主である

李 私は二週間前にひとつ講話をしましたし、せいぜい二、三か月あれば文章は書けますし、かなり長い文章も可能です。私は中国の近代化の目標はすなわち民主

であると思います。役人の言い方では我々の目標は社会主義であると言っています。社会主義と民主は全く異なる概念です。我々が若い時にはレーニンの「社会主義は資本主義に比べて民主が百万倍も優れている」という話を信じていました。この大ぼらは、范文瀾が「仏教は大したものだ。すなわち大ぼらをふけるし、ふけばふくほどみんなが信じる」と言ったようなものです。もちろん国民党も民主など問題とし得ないのですが、ただ国民党時期に、もし普通の民主原理や三権分立を言うのなら、いかなる人物が反対するのも恐れなかったし、どんな脅威にもならなかったし、言論は自由だったでしょう。ただし、言論の自由は宣伝できるが、共産党を宣伝することはできませんでした。

### 「百花斉放」は専制主義の スローガンである

李 我々は現在全く言論の自由を語れません。ただ「双百万針」だけは語ることができます。私は「双百万針」という言

い方に反対している者です。なぜならばこの言い方は近代政治学・近代法学の概念とは矛盾するのですから。言論の自由はかまわない、出版の自由もかまわない、という。何を「百花斉放、百家争鳴」と呼ぶのでしょうか。毛沢東はまったくたししたものです。彼のこの言葉が出てきた時、あらゆる知識分子に支持され、私もそうでした。私は共産党員です。私は当時まだマルクス・レーニン主義の百花斉放を望んでいましたので、彼が「百花斉放」と主張したことは本当に進歩的だと思いました。私は一人の知識分子として、心の中でこのように要求し、何十年も支持しましたね。現在私は「百花斉放」は専制主義の一つのスローガンであると思います。その実質は「あなたが花開くことを私が許す」ということです。胡適は当時アメリカで唐徳剛と話をしました。君は『鏡花縁』を読んだことがないのか。武則天のように、すなわち皇帝が恩恵を施し、しかもその出所について言えば、恩恵を施すのではなく、君に花開くことを強制し、花開かないのはいけないのだ。ただ牡丹だけは花開かないので、洛陽に追いやられた。胡適はとても学識のある人で、彼の話には出所があるに違いないありません。毛主席も「百家争鳴」を提案するために、「百花斉放」をにぎやかにやったのかも知れません。しかも「百花斉放」は現代中国の時間では「百家争



鳴」よりも早く開きました。たぶん五一、五二年頃です。毛主席は文芸界に講話し、「百花斉放、推陳出新」を出しました。その後「百家争鳴」と合わせて「双百方針」になりました。

私はさっきお話ししましたが、私は本当にこの言い方に反対です。どうして現在の近代化の時期、人権が充分に実現されるべき時になって、まだ「百花斉放、百家争鳴」を言わなければならないのでしょうか。一九五七年反右派、すなわちまず人を動員して大いに意見を述べさせ、大いに議論させ、毛主席は人々に花開くように迫ることができました。ある民主家が家で病気になるまで、その人は会に参加したくなかったのですが、無理やり小型乗用車で——その頃小型自動車はともも少なかったのですよ。偉い役人だけが乗れたのです——その人の家の門の所へ乗りつけて、その人を引っ張ってきて会を開いたので、一通りしゃべったのです。実際は話の内容は現在の標準から見れば何でもなかったのですが、一か月たつと反右派がやって来て、おまえは毒を放つ



たと言っています。

### 儒・法両家が中国の専制主義の 伝統をつくりあげた

李 中国は二つの伝統を受け継いだと思  
います。一つはスターリンからの伝統で、  
もう一つは中国の専制主義の伝統です。  
専制主義の伝統はまた二つの思想から成  
ります。すなわち法家と儒家です。老子・  
荘子は中国の大いなる伝統だとは思いま  
せん。いかなる民族においても最も重要  
な創造は、精神的な創造で、その政治制  
度です。しかしいくつかの国家は政教一  
致ですから、宗教はさらに重要な創造の  
ようです。私が強調しているのは宗教の  
中の政治に属する成分で、すなわちこの  
民族の国民性養成の原因です。

人類の歴史発展から見ると、民主主義  
だけが一つの特例で、一つの例外的現象  
です。例えば日本は明治維新以前には、  
一人の先生すなわち中国を知っているだ  
けでした。日本の専制はおそらく中国ほ  
どひどくなかったし、日本には秦の始皇  
帝は出たことがありません。ただ大名統

治もありました。その実質はまるで中国  
の周王朝の封建制度のようでした。全世  
界のいかなる国家も皆専制主義の段階を  
経験したことがあります。民主は古代で  
はギリシアがありますし、近代ではイギ  
リスとアメリカがどちらも非常に特別な  
状況の下でやっと生み出したもので、非  
常に偶然です。そして中国の専制は最も  
発達したもののなのです。

### 「百代皆秦の政治を実行する」

李 私はここで毛主席の学術的地位の  
「ちょうちん持ち」をしなければなりません。  
彼には郭沫若が与えた詩があります。  
「君に勧む、少しく秦の始皇を罵れ、焚坑  
の事業は商量するを要す」。下の一句が最  
も大切です。「百代皆秦の政治を行う」。  
これには私は全く同意します。彼の述べ  
ている意味には私はもちろん反対です  
が、彼は中国のすべてを説明しました。  
もちろん彼が起こした文化大革命には私  
は反対でしたし、彼という人物に対して  
も私は反対です。ただ今から振り返ると、  
ちよつと考えれば、彼の言ったことは事

実なんです。だから真理です、真理は  
すなわち事実です。百代皆秦の政治を  
行う」の次の句は「十批は是れ好き文章  
ならず」（「十批」は郭沫若が著した『十  
批判書』を指す、この本は一九四三―四  
五年に書かれた十篇の秦以前の人物思想  
に対する批判と自分自身への批判的文章  
で、彼は名を得た。その中の「呂不韋と  
秦王政の批判」の一文は秦の始皇帝の極  
権主義に対して否定的態度をとってい  
る）。

劉 彼は非常に明確な意思を持って  
て、専制集権を使いたかったので。  
李 彼の集権については、秦の始皇帝は  
彼と比べることができるとも知れない  
が、秦の始皇帝以後、中国の皇帝の誰も  
毛沢東ほどに達していません。  
劉 彼は秦の始皇帝を超えました。秦の  
始皇帝は地方に対するコントロールがさ  
ほど厳しくありませんでした。  
李 厳しくできなかったのです。例えば  
毛主席は、ラジオ放送のような近代的名  
ものを利用できましたが、秦の時代には  
どこに放送がありませんでしたか。

張 毛は現代の手段を用いて彼のコントロールを強化しました。

李 あの頃、私は農村に下放されています。毎朝早くから放送が響いていて、聞いても聞こえるし、聞かなくても聞こえるのです。現在では中国の庶民はすでに蒙を啓き始めました。すなわち「それはいけないよ、私の睡眠に影響する」と言えます。「文化大革命」の時には、誰があえて意見を出したでしょう。

劉 以前民間では「天は高く皇帝は遠い」と言っていましたし、また「外にいる君主の命令は受けないことがあつてもいい」とも言いました。しかし毛沢東の下ではこの二つはどちらもだめでした。

### 「国情に合わない」

李 両方ともだめです。しかも秦の始皇帝の時は人口が少なく、一人あたりの土地資源も多い。だから生きていく道も比較的広がった。毛沢東時代になって、人口を懸命に増やしたので、人の混み具合ときたらひどいものでした。その結果、現在中国は一三億の人口ですから、民主

を実行するのは困難なのです。現在新聞紙上に載っている、なぜ三権分立が実現できないかの文章を、私は読みました。

劉 現在、深圳では三権分立を試行しようとしていると新聞には載っていましたね。

李 いいえ、それはあなたの思い違いです。新聞紙上の文章はともとはつきりして、三権分立の実行は「国情に合わない」といつているのです。彼が言っていることは、どんな「国情」と合わないのかは、私には分かりません。おそらく毛沢東の思想と合わないでしょう、毛沢東思想を用いてすでに五〇年余りやってきましたからね。国民党の時期にも民主に反対し、その理由も「国情に合わない」ということでした。

### 現在啓蒙することは非常に重要である

李 現在人々を啓蒙することは非常に重要なことで、しかもなお大変難しいと思います。なぜ同様に難しいと言うのかですが、中国の大規模な啓蒙はただ一回

のみで、つまり「五四」です。私の「五四」に対する評価もとても高いというものではありません。「五四」は男女の恋愛の自由の問題を解決しました。当時都市の知識分子は四億人の中でたった千分のいくつかを占めているだけで、数百万を越えませんでした。ただムードが変わりました。いわゆるムードは文字の上では小説を書き、新聞で始まったのです。実際には広大な人民の生活習慣を変えることは難しい。ですから毛沢東が出た時に、これらの民衆は毛が最後にコントロールして利用できる力となったのです。

### 中国の二大伝統——朝廷と反乱

李 中国には二つの伝統があります。一つの大伝統は朝廷です。もう一つの小伝統は反乱です。中国は昔から、王朝の交替はそのごく少数が貴族の謀反である以外は、大部分が農民の反乱によるものでした。農民の反乱は、さらに激しさを増し、いわゆる敵を殺し、白骨が野に満ちたと言わなければいけません。ここでちょっと

研究してみよう。三国時代の人口死亡率はだいたいヨーロッパの黒死病時代に匹敵します。私は具体的な数字を覚えていませんが、例えば当時五千万の人口がありました。桓帝・靈帝から劉備・曹操の時まで千数百万が残ったのみで、死んだ人は本当にとても多かったです。西晋・五胡十六国以後隋朝末年まで、

瓦崗の反乱でまだだけ多くの人が死んだことか、唐の安史の乱ではまた多くの人が亡くなり、唐朝になって黄巢が反乱を起こし……人を殺すのは本当に残忍ですよ。洪秀全の時期に私たちの江蘇・南方では、どれだけの人が死んだかわかりません。

張 安徽では、太平天国の前には一七〇〇万の人口がありました。太平天国後はわずかに八〇〇万を残すだけでした。太平天国の反乱の時期の人口減少については二種類の統計があり、小さい方の統計では全国の人口が八千万人減少し、もう一つの大きい方の統計では一億二千万人が減少したとしています。太平天国は一八五一年に起きて、一八六四年に滅亡し

ました。中国の人口は、辛亥革命の一九一一年以後になって一八五一年以前の数字に回復しました。

### 「関雲長の大太刀は原子爆弾よりひどい」

張 毛主席は、関雲長（関羽―訳注）の大太刀は多くの人を殺し、原子爆弾よりひどいと言ったのではないですか。

李 毛主席が一九五五年にネルーと会談した時に言った言葉です。ネルーは当時彼の言った意味を理解していませんでしたが、実際毛主席のこの話はまた一〇〇%事実と符合しています。ネルーは当時非常に誇らしげに毛に言いました。「私はこれでも科学者です。あなたは原子爆弾を軽く見てはいけません。原子爆弾が落ちたら大変ですよ！」毛主席は彼に、原子爆弾は怖くはない、関雲長の大太刀はあなたの銃身の長い大砲よりもひどい、と言いました。毛のこの言葉はすでに事実が証明しています。原子爆弾は日本ですべての人を殺しましたか。数十万人。しかし日本の人口は下降しませんでした。

た。ただしむごいのです。三国時代、あつという間に千数百万人が減りました。もちろん殺された人だけではありません。戦争の後に必ず起こった飢餓や疫病で病気になるって死んだのです。

張 自然周期・社会周期の二種類の災難や混乱が重なって、さらに重大になったのです。

李 ああ、あなたは社会学をやつていらつしやいましたね。

張 もともとは哲学を学んでいましたが、現在は社会学をやつています。また魯迅についても少し研究しています。

李 中国社会学、人口は専門に研究する価値が大変あります。

張 その通りです。人口は社会構成の主体要素です。人口が多いのが中国の第一の特徴です。

### 近代専制主義と前近代の専制主義

加々美 専制主義は近代にも前近代にもありました。例えばあなたが先ほどおっしゃった毛の近代専制主義は、秦の始皇帝の専制主義と同じところがあります

か。

李 ももちろん同じところはあります。近代の専制主義はもつとひどい。しかし、先ほども言いましたが、少なくとも中国やヨーロッパでは、人を殺したというこの一点では、近代はそれ以前ほどひどくはありません。

張 そうです、そうです。中国はあの数年の困難な時期に餓死した人が比較的多かった以外には、毛時期は、本当に殺された人はいくらありませんでした。

李 もう一つ、医業条件の改善です。これは社会変化と何も関係がないと言ってもいいでしょう。主に科学進歩と相關関係があります。

張 特に西洋医業で、ペニシリン・抗生物質の発明です、とりわけ天然痘ワクチンの発明と応用が嬰兒の死亡率を大いに下げました。

李 毛沢東の殺人は暗殺です。彼には原則があり、延安整風以後確定した原則で、「二人も殺さず、大多数の人を勾留しない」と言われていて、彼はそのようにしました。しかしこの原則の背後で、実際

には彼に死を迫られた人がどれだけいたか分かりません。劉少奇はその一人で、このような人は多かったです。ただ劉少奇は彼が直接殺したものではありません。この点では、毛は些か近代化しています。

張 これはまさに魯迅が言っていた「軟刀子」で、軟かな刀で自害させ、彼は硬い刀を用いないで人を殺しました。彼の優れた点はここにあるのです。

### 毛沢東とスターリンの専制の二大特徴

李 毛とスターリンの専制には二大特徴があります。一つは極端な専制で、もう一つは心理的征服です。王若水のこの本（『新発見の毛沢東』を指す）の最も精彩に富む部分は、集権主義下の心理のねじれに及ぶ二千字です。私にも心理体験があり、私自身かつて最も毛主席を支持していると感じていました。なぜならば毛主席は党に反する者は右派分子だと言うので、それでは自分に過ちがあり、自分には一銭の値もないというしかありません。

人。しかし私は王若水のようにひとつに整理することができませんでした。これは啓蒙であると言えます。

劉 新しい啓蒙は、最も主要には自分を呼び覚ますことを指しています。自我意識が欠けていると、多くの共産党員は従順な道具になり、私たちのように少年の頃からこの種の教育を受けてきた者にしても、そうなのです。ロシアのモロトフやプハーリンのような人は中国にも多いのですが、ただ共産党員が事業のために冤罪で死ぬことすら望む精神を最も表現できたのは、ロシア人の記録が私たちのものよりも多い。モロトフのスターリンに対する態度は、すなわちスターリンが私を殺すことも心から希望し、革命のために私が死ぬことが必要ならば、私は死ぬというものです。私は過去にもこのような感覚を持ったことがあります。

加々美 最も有名なのは党の正義を証明するためなら敢えて自ら罪に服するといったプハーリンです。

## 「臣の罪は誅に当り 天王は聖明なり」

劉 皇帝の恩は果てしなく、家臣の罪は咎めをうけて殺されるのが当然だ。これは中国の士大夫の一つの伝統です。

李 自ら儒学を中興し道統を伝承したと思つた韓愈は、二千年余り前の周王にかわつて、周王当時の最高統治者である殷の紂王に罪を認め忠誠を尽くした歌『姜里操』(『姜里操』すなわち『拘幽操—文王姜里作』で、韓愈は文王の口調をまねて詩を書いた)を作り、「臣下の罪は咎めを受けて殺されるのが当然だ、天子は聡明である」とか言い、忠君の最高模範として、後世の人の学習の模範となつたのです。これは本来とても恥ずかしいことであるべきなのに、一千年余りも中国人の最高の道徳の準則となりました。しかし私の同窓である唐振常教授の考証によれば、韓愈のこの話は「遠回しな批判で、反語で、ひどく怒つた呪詛」なのです。ただ私はずっとこれを知りませんでした。だが、確かにこの二句を頼りに、自分の

奴隸根性すなわち阿Q性を発揚して、右派に入れられて後、思想上極めて辛い最初の二年間をなんとか過ごしたので。

私は私と同じような心理の人が多いことを確かに知っています。私たちは皆自らの経験で専制主義が中国人の魂を支配する實際を検証したと言えます。現在中国人に最高の政治道徳の基準と見なされているのはすなわち「大体を認識し大局に顧みる」ことであり、周恩来の一生はまさにそうでした。

劉 ですから自己を呼び覚ますには、必ずこのような觀念を打ち破り取り除かなければなりません。

李 陳独秀が『新青年』を創刊した時、初めこの点を非常に強調しました。本当のところ魯迅がこの点を非常に強調したのです。私はいかなる民族であれ最も重要な創造は、火薬の発明でも、ニュートンの定理の発見でもなく、政治制度を作ることであると思います。政治の下で人々の心理状態や社会心理・国民心理が決定されます。魯迅の創作の最高基準はただ一つで、それは国民性の改造です。

国民性を改造するために、彼は一つの標本をとり出しました。それが「阿Q」です。確かにとても深く書かれています。

ただ阿Qの国民心理はどのように作られたのでしょうか。私の答えは、秦の始皇帝以後の専制が作り出したのです。例えば雷鋒が作った「支山の歌を歌って党に聞かせる」というような歌は日本では歌うことなど全くできません。自民党は第一党ですが、公明党もありますね、あなたは支山の歌をどの党に歌って聞かせますか。中国が今民主を実現でき、多党派制を実現できさえすれば、現在流行しているものの多くがなくなるはずで、現在「中国にはまだどんな専制主義があるのか、共産党を、陰でそしらない人があるのか」と私に言う人がいます。あなた(加々美を指す)が今中国にいるこの時期に、共産党をそしらない人はいませんし、何が江沢民だと批判しない人はいません。江沢民に威信がないのは確かに本当の話です。しかしこれは裏返せば、専制主義の存在を証明しています。今人民代表大会を開き、あなたの機関の首長が報

告すれば、誰が江沢民にあえて反対し  
すか。しかし陰で罵るとききたら全くど  
んなでたらめも及びません。しかし公開  
の場にいれば、どの人も孫子です。この  
事情は日本ではこんなふうではないはず  
だと思えます。日本人が従順だというの  
は有名ですが、このように完全な奴隷根  
性のものではないはずで、日本人には  
ある種の規律性があると言えます。中国  
人のその種のもは、ほとんど完全な奴  
隷根性です。ここでもなら江沢民を罵る人  
が、本当に出合う機会があれば、態度も  
異なるのです。例えば、私が最近見た一  
幕ですが、この間江沢民が社会科学学院に  
来た時、私はエレベーターで下りました。  
扉が開くと一人の人が入ってきて、忙し  
そうに「ああ、江沢民だ」と言いました。  
どうしてあんなふうなのでしょう。至る  
ところに吉報を知らせてまわるといった  
風情でした。その人が、昔偉大な指導者  
である毛沢東を敬服したように心の底か  
ら江沢民を敬服しているのかどうか分か  
りません。私はそうではないと確信して  
います。嘘を言い、裏表のある人、ある

いは天子は聡明なのでしょう。すでに全  
人民の心を変えたのです。

### 「六経には真の字がない」

劉 中国人はずっと自我意識がありませ  
んでした。中国人の自我は皆群の中に放  
たれました。私は次のような現象を発見  
しました。「公」と「私」は現在常に用い  
る概念ですが、我々の思想史には「公」  
と「私」の概念はありませんでした。こ  
れはとても不思議な現象です。なぜなら  
ば中国思想史はカテゴリーを用いるもの  
だからです。例えば、「義」と「利」、「善」  
と「悪」……など皆一組一組対応する概  
念です。しかし「公」と「私」を叫ぶど  
んな思想もかつてありませんでした。こ  
の「公」と「私」は実のところ最大の間  
題ですが、思想史上にはその地位はあり  
ませんでした。ですから私は思うのです  
が、中国の伝統文化は「個人」を認めな  
いのです。

李 中国人に最も欠けているものは何で  
しょう。「六経には真の字が無い」ので  
す。中国人は現在口を開けば好んで「真

善・美」を論じます。毛沢東も言ったこ  
とがあります。私は一人の若い人に論文  
を書かせ、「真・善・美」を専門に調べさ  
せました。その結果、最も早いのは蔡元  
培が言ったもので、真・善・美を要求し  
たのは、一九二五年であることを考証し  
ました。さらに遡ると、「真・善・美」の  
この三つの概念は、完全に西洋人が言っ  
たものなのです。

### 毛の著作のいろいろ

加々美 毛沢東が若い時に書いた文章  
で、題名は「心の力」だったような、発  
表されなかったものです。恐らくその著  
作で毛沢東が強調したのは人の意志の力  
だったと思います。

李 毛沢東の若い時の思想は晩年とは大  
きな違いがあります。彼は確かに無政府  
主義者であった時もありました。

劉 彼は王陽明を崇拜し、心学を崇拜し  
ました。

李 曾国藩も崇拜しましたが、これは重  
要ではありません。現在何冊もの書籍が  
あります。私のところにも何冊もありま

す。日本で出版された『毛沢東選集』は二十巻あります。

張 私は見ました。まず『毛沢東集』、その後で十巻の『毛沢東補巻』が出ました。竹内実の監修で蒼蒼社の出版です。

李 現在中国でも毛沢東の文集は出ています。

張 それも後に修訂されたものです。

李 そうです。修訂もあります。仕方がないので。例えば、王若水のこの本の中で用いている二つの材料ですがね、私を知っているのだけで間違いがあり、一つはいわゆる「十大関係を論じる」で、私が聞いた内容は、現在編集ができた『毛選』第五巻の中のものとは大きく異なっています。ただ時間はあっています。もう一つの最も有名なものは「人民内部の矛盾の問題を正しく処理することについて」で、はじめに聞いたことと後で読んだこととは違っていました。さらにもう一つの文章は「宣伝工作会議での話」で、多くの人が皆、話をした次の年に発表したと思いますが、間違いです。五七年に話をし、六三年に発表しました。私

は現在では最後に発表されたあの文章は誰が書いたものか知りません。もともと発表したものと一句も同じではないと言えます。

劉 です。それから現在李銳が、真実の歴史をごまかし続けていると言っています。

李 毛には原稿さえない講話がいくつもあります。「十大関係を論じる」は原稿がありませんでした。私はかつて自ら呉冷西に聞いたことがあります。鄧小平の優れた技は、毛の話を利用することです。我々の中国術語を用いて言えば、毛の最も右派的、最も開放的、最も進んだものが「十大関係を論じる」です。鄧小平は七四年に出てきたでしょう。彼は毛主席の話を利用し、一言で一万語に匹敵させました。しかし彼はあえて毛のもともとの話を出して、毛主席に丸印をつけることを許しませんでした。

張 鄧小平には一つの重要な策略思想があり、つまり我々は毛沢東問題において「やはり唯心、違心でやらねばならない。我々のこの一代は毛の形象を守っていかなければならない」というのです。この

観点には賛成です。ただし彼一代がどのようににできただけです。今は次第に事実に戻り、歴史に戻り、毛沢東の真相に戻すべきです。党史を嘘の歴史からもとに戻って真史、信史にすべきです。結局のところ、実事求是の思想路線に戻らなければならぬのです。

### 新權威主義

李 私は現在中国で啓蒙することは特に困難であると感じています。実のところいわゆる啓蒙は簡単で、西洋の思想を受け入れることです。日本は西洋をまねて制度を改め、数年で大体全般的に西洋化しました。日本の二番目の開国は一九四五年で、最高の新權威はマッカーサーでした。

加々美 そうです。日本人もまた權威主義的で、マッカーサーの權威によって西洋的な啓蒙を進めたと言えるのです。

李 彼の權威は毛沢東よりさらに大きかったと言うべきです。毛沢東にはどのような関係を正すか考えなければならぬ、いたくさんの問題がまだありましたし、

多くの策略もありました。マッカーサーの言ったことはすなわち法律で、無条件に執行されました。マッカーサーは良いことをして、日本は実際には大きな代価を支払わず、進歩した民主を手に入れたと私は思います。現在聞くところでは日本は三回目の開国だそうですが、これは難しいでしょう。

張 これは難しい。非常に難しい。私は一九八八年に慶応大学に招聘され、日本に数か月滞在しました。多くの日本人の学者が三度目の開国のことを言うのを聞いて、とても良いことであると思いましたが。しかし今に至っても大きな進展はありません。なぜならばこれは深い文化心理の問題に及び、心理が狭ければ狭いほど国際化は難しいからです。

李 国民性がとても重要です。私が言っている国民性は、魯迅が批判したものです。陳独秀の言葉もあります。我々の最後の自覚は、倫理の覚醒である、と。私はまず政治制度の問題を解決しなければならぬと思います。しかし政治制度よりもっと深い問題があります。それは宣

伝活動です。すなわち先ほど言いました「支山の歌を歌って党に聞かせる」のあの雷鋒の奴隷の歌です。この話は今ではもう言う人がいなくなりました。

張 陳独秀が一九一五年に創刊した『青年雜誌』の初めに言いました。「為政者の功績や徳をほめたたえるのは、奴隷の文章である」と。

加々美 実際は日本の敗戦後、アメリカの占領期間に、マッカーサーたちは日本で大規模な民主改革を行い、基本的には徹底的な改革を行いました。当時の日本の一般市民はアメリカを承認し、崇拜し、その統治を受け入れ、心理的には奴隷根性でもありました。もちろん過去に比べて些か心理的に開放されましたが。

張 これはすなわち近代化の過程には専制主義の権威もあるということです。しかも確かにこのような近代専制主義の権威は、伝統的専制主義から現代の民主へ向かう橋渡しの働きをしました。

加々美 おっしゃる通りです。日本はマッカーサーが徹底的な民主化改革を行ったので、新しい制度ができ、この制

度があつて、ようやく民主建設が実行できたのです。

張 これはちよつとナポレオンの新権威主義のようです。

李 いいえ、その権威はナポレオンよりもまだ高い。

張 それはもちろんです。私は「ちよつとそのようだ」と申し上げました。伝統的専制主義から近代的民主主義までのその間には重要な人物がいると言っているのです。ナポレオンが自分の軍政権威によつて、フランスや西欧の封建専制を一扫し、資産階級の民主政治がヨーロッパで確立するためにその道をきれいに掃除したようにね。アメリカの第一代大統領であるワシントンも自分の権威によつて、アメリカのために民主憲法を制定し、それから自分自身手本を示し、憲政民主の伝統を開きました。中国は特に厚い専制の伝統から、孫中山・鄧小平ら何代も権威を経て、今になつても憲政民主はなおも確立していません。現在歴史の重責と機会はすでに胡錦濤の身の上にあります。彼には適切に一步を踏み出す望み



があります。

李 もしアメリカが今日アメリカの市民によりまた憲法を作るならば、当時には及ばないでしょう。現在国家は大きくなり、人口も多くなり、思想も複雑になりました。アメリカの憲法はわずかに七条で、さらに修正案を加えても、とても短い。このようなものは現在ではかえって作りにくいでしょう、本当に。

張 現在アメリカはまた悪いほうへ変わり始めていると私は思います。

### 『南方週末』朱鎔基の特別版

劉 数日前『南方週末』全版に朱鎔基を評価する文章が載っていました。

李 今日までに私はすでに二部受け取りましたが、全版ではありません、二四版です。

劉 しかしこれも論争を引き起こしました。多くの人が手紙を出し、朱鎔基に対する敬愛を表しました。このような現象に対してとても憂慮している人々もいて、一般市民はいつも清廉な役人に期待しており、すなわち本質的に清廉な人物

……

李 あなたはそのような見方しかないと思いませんか。余傑という人の文章がネット上に出ていて、朱鎔基を痛切に罵り、『南方週末』を罵り……

劉 そうです。反対の意見について、『南方週末』は後に回答して、現在の体制の下で、中国は別の方法を見つけられないかも知れない、今のところ比較的良好な役人が出てくる希望しか持てない、と言っていました。

李 私の解釈では、それは朱鎔基を褒めることで、江沢民や李鵬の面目をつぶし、同時に胡錦濤を激励するものです。

劉 朱鎔基は彼が今回退いた後は故郷に帰り、どんな公共や民間の団体の職務にもつかず、戻って本をしつかりと読むつもりであると言いました。彼は長年人々が自分に手紙をくれたが自分は返事を出さなかった、退職後は返事の借金を返さなければならぬので、完全に隠退すると言いました。一般市民はこの点を非常に称賛しました。極度に権力に恋々とする人に比べて、彼の行為のコントラスト

はとりわけ強烈です。もし中国のこうした背景を理解しないならば、一般市民の反応は理解できません。

### 呂日周・姚立法現象

劉 私は現在さらに注意に値する二つの社会現象があると思います。一つは呂日周現象で、もう一つは姚立法現象です。姚立法は湖北省の普通の幹部です。彼は八四年末からその地の県の人民代表の選挙に出馬し、一二年奮闘し、とうとう当選しました。当選後彼はその地域の政府の教師の給料や医療費などの流用を暴露しました。多くの人がもつと多くの姚立法が出ることを呼びかけています。これは基層の人民の民主の覚醒であると言った人がいます。

もう一つは呂日周現象です。八〇年代にあるテレビドラマがセンセーションを巻き起こし、主役はまさにこの人の原型で、内容は彼がどうやって一つの県を良く治めたかです。彼が県の中で政治に携わった期間、民衆の称賛を得ました。問題はその後彼が転動で移動してしまっ

て、省政府協商委員会の副主席になったら、その県はだめになってしまったことです。彼がもといた県の一部の県民も彼の転動先に移動したそうで、やはり彼個人の人治に頼っていました。

張 やはり孟子が言ったあの古い言葉です。「人存すれば政挙り、人亡くば政息む」。

劉 呂日周現象が表しているのは清官コンプレックスです。姚立法現象は過去にはありませんでした。彼は自分で選挙に出馬し、人々は彼のことを「厚顔」と言いました。一二年を経てやっと当選したのです。

これは中国の民主化の過程において、民間に現れた二つの現象で、注目に値し、しかもその後の結果にも注意しなければなりません。

李 かみ殺されるかも知れません。

張 まさに魯迅が言ったように「大衆の睡で溺れ死にさせられるはずだ」。中国はこれらの民衆の睡だけで、彼を溺死させるのに充分です。

劉 私は中国の民主化は、民族性から言

えば、清官コンプレックスは大きな妨げであると思います。

### 「啓蒙」のいろいろ

李 要するに現在は啓蒙をしなければならぬのですよ。私には二点の見方があります。第一点は、現在は一九一九年より困難で、現在は当時のそのような知識分子の団がいまません。しかも当時の知識分子の団は実際には孔孟の道の教育を受けていて、「天下をもって己の任と為す」という概念がありました。現在はこのような団がいまありません。

劉 現在啓蒙に反対する人々の一団もいて、すなわちポストモダン派です。

李 あれも共産党の新啓蒙が古い啓蒙を改編するひどさとは比べものになりません。共産党のマルクス・レーニン主義の啓蒙は、私、李慎之のような理想を持つすべての人をその門下に収めてしまっています。

### ポストモダン・新左派……

加々美 先ほど劉先生がおっしゃったの

はとても道理に適っています。現在中国は発展が早いので、若い人の中にはすでにポストモダンの思想があります。

李 新左派です。

加々美 汪輝を始めとする新左派がいます。その他の派の人もいます。

李 彼らの民主に対する態度は、第一に享受したことがないし、分らない。第二にあれこれとあら探しをします。

張 また、現在は西洋の一部の国家には確かに些か近代化の弊害が現れましたので、それでポストモダン派が出てきました。ただし中国やインドを含む一部の発展途上国は、近代化の実現からはまだとても遠い。これらの国家に現れた流行を追う自画自賛のポストモダン主義は、実は真正銘プレモダン派に過ぎません——漢有るを知らず、遑として魏晉を論ず！

### 民粹主義——毛沢東と陳水扁

張 去年私は台湾を一周しました。台湾は経済の上では「台湾経験」を作り出しましたが、政党的交替の後に政治上でも

取るべき経験を出せるかどうか、と思いましたが。ちょっと見て大いに失望しました。その民粹主義は毛沢東と全くそっくりです。しかも陳水扁の就任演説も毛沢東に雷同していて、毛沢東は政治協商会議で「中国人民は立ち上がった」を述べ

ましたが、陳水扁の就任演説の題名は「台湾人民は立ち上がる」でした。使っている語彙は、聞けば聞くほど耳に慣れた感じがして、ちょっと数えてみたのですが、毛沢東のあの演説中には五十余りの「民主」がありました。陳水扁の演説では三六ありました。台湾語で言えば、陳水扁は毛沢東のために本を暗記したようです。

加々美 実際は、毛と陳の言い方は同じでも、社会的基礎は全く異なります。陳水扁は国際化の時代・情報化の時代について、ITの影響は広範で、規模は世界的です。毛沢東の時代にはそのような社会的条件は存在しませんでした。

張 毛沢東の民粹主義は前近代の農民民粹主義で、社会的基礎は農民でした。陳水扁のはポストモダンの民粹主義で、社

会的基礎は下層の小市民と一部の知識分子です。両者には違いがありますが、深い内在的連絡と共通性もあります。陳水扁の民粹主義は非常に狹隘で、グローバル化に逆らうものです。

### 学生運動比較論

李 日本は大体一九八〇年代以前ですが、毎年大規模な反米デモが起きていました。中国よりもずっと大きかったです。しかしこれらに人々が大学を卒業してしまつたら、ある者は会社員になり、またある者は政府の官僚になって、すぐに完全にやめてしまいました。反米運動が日本よりも十年近く遅れて、意気込みが強かったのは韓国でした。結果たぶんやはり十年前でしょう、大体はやめてしまいました。原因は日本と同じで、大学生は一旦学校を離れ、仕事をするようになる、うんととすんとも言わなくなり、韓国の大学生の就職の方向は大体やはり二種類で、一つは政府関係に入って仕事を、もう一つは企業に就職することです。

劉 日本や韓国の多くの運動は、皆象徴的なものであると思います。デモ行進にしろ、資本家に反対するにしろ、反米にしろ、いずれも象徴的なものです。

李 象徴的なものといえば想い起こすことがあります。考えても「ごらんさい、中国には、象徴的なものはないのです。抗日戦争後、最大の反米デモは沈崇案が引き起こしたもので、一人の女性が踊りに行きました。踊り終わった後、二人は友達になって北京飯店の文化クラブから出て、東単へ歩いて行きました。その頃の東単は闇市でしょう、結果男性は暴行しようとしたようなのです。一対一の問題でそんなに大きなことではないでしょう。ただ当時もう一つの事情があり、本

当に馬鹿なことでした。つまりソ連が東北を占領していて、町では公然と女性が強姦されていて、極めて重大でした。その影響があつたので蒋介石政府が反ソデモを起こしました。政府が起こしましたから、規模が大きく、あぜ道でも氣勢をあげる中学生や小学生が旗を振って、叫んでいました。その時には私はもう大学

を離れていました、私たちの教え子やそのまた教え子は皆任務を受けても行動を起こさず、かえって国民党に反対しました。

劉 それは地下の党活動をしたということですね。

李 そう、地下の党活動をしたのです。張 ただし後に多くの東北共産党がこの真相を知りました。劉賓雁が右派にされるには、ひとつの罪状があったそうです、反ソというね。彼は東北の人でしたから、当時のソ連軍のこのような事情を知っていました。

李 当時大反ソデモに参加したことは、それ以後政治の汚点となりました。実際は当時のソ連軍は中国の女性を強姦したばかりではなく、大量に機器を解体して行つたのです。

劉 ソ連が解体した機器の価格は彼らが私たちに援助してくれた金より多かったです。事実私は私たちへの援助は無償援助でもなかったのです。

李 このことはですね、私は共産党です、ですから振り返って思うことに、我々の

共産党は本当に「辛抱強い」。

「文革」は拭い去れない

劉 今日私がここに来る前に、江沢民が人民代表大会に出席した湖北省代表团に講話したということです。彼が武漢にいた時、文革期間中に迫害を受け、批判闘争された時その場でめまいがして倒れてしまったと話しました。彼の意図は彼のこのような経験を若い人たちに知らせるべきだということです。だからこれはよい情報で、啓蒙は文革を反省することから進展できるでしょう。

李 現在当局は文革を人々の記憶の中から抹消しようと思っています。もう二七年です、ぬぐい去りたい。しかし私はぬぐい去るべきではないし、ぬぐい去ることもできないと思います。

張 それは当然です。私は最近香港の中文大学へ行きました。中文大学中国研究センターが非常に系統的な文革の資料大全を作り、CDを作成し、出版したばかりなのです。エンゲルスが、『イギリス労働者階級の状況』という本のフランス語

版の序文だったと思いますが、一つの民族、一つの階級、一つの党、一人の人は、理論の上で成熟してこなければならず、最良の方法は自分が犯した過去の教訓から学ぶことであると言っています。我々はこの比類なく悲惨な代価と交換に得た教訓をまじめに研究し吸収するべきで、もう自ら欺き人をも欺くべきではありません。

李 要するに、中国の問題は、やはり専制主義の軌道から離れていかなかったということです。では、現在唯一の助けといえば、まさにただ一つだけ、民主を実行することで、他にはありません。新現代派にしる、ポストモダン派にしる、新左派にしる、多くの民衆はやかまし、く、がやがや言いますが、惜しいことにあえてこの問題に触れようとする人はいません。

### 文章の風風

張 現在一部にはむやみに罵り、西洋のものを取り入れても理解せず、自分自身では全く分かっていない人もいます。

李 崔之元はとても賢い人で、私は彼と懇意です。崔之元はアメリカの憲法問題を研究していて、とても内容があります。汪暉という人は私はあまりよく知りませんが、彼の文章は私は読んで分かります。彼には最も重要な文章が二つあり、一つは中国の近代性を述べたもので、もう一つはグローバル化です。去年発表しましたが、両方ともとても長く、二万字余りあります。うまい具合に私の見方と真つ向から対立します。彼の文章と私とは全く異なります。

劉 彼の文章は文字面ばかりをひねり回したもので、少数の何人かが分かるだけでしよう。

李 その少数ですが、いつたい分かっているのかい、私は疑っています。この点で彼らと毛沢東は異なり、毛沢東のすごさの一つは、最も簡単な文字を用いて、しかも感情豊かに大衆を納得させることができました。汪暉は「一六・四」は中国人民がグローバル化に反対したものだ」と述べましたが、これは実際には矛

先を鄧小平に向けたもので、なぜならば鄧小平の親米政策・開放政策はすでに中国の資本主義化を作ってしまった、資本主義の弊害が中国の至るところにすでにあるからです。理由はこのようにとても簡単です。汪暉の二万字は数語ではつきり言うことができると思いますが、ただ彼の二万字は一語一語考えても私には分からないのです。

### 文化政策

劉 江沢民のこの話により（湖北省代表団との会見での「文革」についての談話を指す）、一部の出版社は話を聞いてもう動き出したそうです。「文革」問題についての本はこれまでは出版を許されていません……

李 動かないほうが良いと、はつきり申し上げます。我々の中国共産党は最近（第一六期全国人民代表大会以後）李長春が宣伝工作を握ってからすぐに緩和の合図がありました。『南方週末』（朱鎔基を賞賛した）問題の処理はこれと関係があります。

李 鋭は『炎黄春秋』に発表した文章が三か月も反応がなく、すなわち上部で反応がなかったのですが、現在になって上部は『炎黄春秋』を批判し始めました。

劉 それは最近の情報ですか。

李 そうです。最近です。宣伝部長の劉雲山はまた次のように発言しました。締め付けなければならぬ、緩和することはできない、と。これは鄧小平の述べた二つの唯心論（唯心と違心）で、中国ではすでに毛沢東がこの局面をやったのです。締め付ければ死ぬし、緩めれば乱れると言います。

張 乱れたらまた締め付けなければならぬ、締め付けたら死に、死んだらまた叫び、叫んだらまた緩める、緩めたらまた乱れる……これはすでに文化専制体制下で、中国社会思想文化の運行の法則になっていきます。しかし客観環境の変化、とりわけ市場経済基礎の確立と情報時代の到来により、毎回の衝撃の強さと広がり、さらには大きくなり、ぶつかって開いた口はさらに大きくなり、そして毎回の締め付けは前回よりさらに難しくなってい

く。見たところ、中国の言論の自由・出版の自由・思想の自由は、このように緩めたり締め付けたりする循環の中で次第に拡大していくはずで、まさに螺旋状に上昇し波動状に前進する過程です。

劉 しかしこの体制が変わらなければ、底のほうでいかなる変動も形は様々に変わってもその根本原理は変わらないのです。だからまず体制突破が必要なのです。

李 そうです。だからやはり啓蒙を言わなければなりません。啓蒙にはまずあるものが重要です。すなわち人権を非常に強調しなければなりません。もともと民主の初めは人権からきていて、例えばフランスの人権宣言、アメリカの人権宣言です。しかし第二次世界大戦後、人権問題は徹底的に世界の思潮となることはありませんでした。

### 中国近代啓蒙人物への評価

李 中国には梁啓超がいます。若い時はやはり西洋化を信じたと言うべきです。

後にヨーロッパ第一次大戦後、ヨーロッ

パに一度行って、やはり我々の東方文明の高さを発見しました。

張 しかも当時は訳の分からない言説があつて、例えば康有為は後にヨーロッパを遊歴し、バルカン半島やセルビアの動乱や不安定さは、城壁が我々のものほど分厚くないからだといひ発見したので、どうやらやはり中国の専制の城壁は頑丈なようです。

李 康有為と梁啓超を比べると、康有為は先生で……実のところ全く話にはなりません。彼は最初の一発を打ちました。

梁啓超は全面的な西洋化論を最も早く鼓吹した人物だと言えます。ただ一九一九年以後、実に後退しました。啓蒙の歴史上、比較的前後が一貫していたのは胡適です。最近胡適についての討論は徐々にぎやかになってきました。陳独秀の話は胡適よりもっと力がありました。彼は共産党になってしまいました。それから無産階級の民主は資産階級よりも強いと言いました。さらに二〇年が立ち、老先生は悟り、また何条か総括しましたが、皆資産階級の民主の原則で、何が人権を

擁護するか等々です。歴史のロジックからは結局逃れることはできないと私は思います。

### 毛沢東のマルクスに対する解説

李 共産党には、理論上ではすべてを圧倒する意気込みという習慣があります。この習慣は現在では事実すでに変わっています。ある人は自分では学識があるように思っていて、毛沢東は『資本論』すら読んだことがないのに、マルクスなんか分かるものかと言いました。まちがいです。毛沢東はマルクスに対してずっと確固として信じていましたし、『共産党宣言』を読んだことがあれば、充分です。それにスターリンのいくつかを加えましたが、あんな分厚いものを読む必要はないのです。もしこの理論が彼を後押ししなかつたら、彼が世界革命をやり、第三世界のリーダーになりたいと思うはずは絶対になかったのです。

張 ただ彼のマルクスの著作に対する理解は中国の農民的な解説でした。

李 当然です。しかしもし中国の伝統的

な農民の解説だけだったなら、またもし張魯（後漢末、天師道の首領。漢中でおよそ三〇年の権制をたてた。義を起し、世を救い、貧しい者を救済する政策を実行し、中国の伝統的な農業空想社会主義の色彩を持っていた。最後は曹操によって殺された）だったなら、彼はそんなに大きな力を持たなかったのです。

張 しかし、やはり文化大革命中、私はその日が一九六六年八月二三日だったことを覚えていますが、『人民日報』の社説で、題名は「とても良い」でした。毛沢東の「最高指示」を伝えました。「マルクス主義の道理は、いろいろあつて問題が多いが、つまりは『造反有理』に帰結する」です。これは陳勝・呉広主義ではありませんか。毛は中国の秦の始皇帝に陳勝・呉広を加えて、マルクス主義を解説したのです。彼は「階級闘争」の四文字を覚えていただけだと言いました。

李 私が言いたいことはまさにその点です。しかも毛はマルクス主義がすでにスターリンおよびその理論家によつて世界的理論になり、どの国であろうと例外は

ないと考えました。彼がもしこのような持ちこたえるものを持たなければ、絶対にこれほど大きな成功を取めるはずがありません。

### 毛沢東の農業社会主義

加々美 一九八〇年代半ば、王小強という人が、一篇の文章を書いて、毛の社会主義は実際は農業社会主義であると述べました。当時の毛沢東には確かに民粹主義の思想がありました。現在の中国について大切なことは、やはり李先生がおっしゃっていることで、新啓蒙という目標が必要で、この目標を実現するには、まず新しい制度を作らなければなりません。制度をきちんとしないで国民性を改革しようとしても、おそらく実現はともも難しいでしょう。

李 毛沢東の発言に照らせば、彼が作った制度、すなわち人民代表大会制度は、全く新しく、世界でもっとも先進的だと思っていました。レーニンには本当に問題になったのだと思います。彼が作った制度はソビエト制度と呼ばれ、実際は我々

の人民代表大会制度と大同小異でした。張 だから中国の「ソ区」ははじめソビエトとも呼んだのですね。しかしあちらのソビエトの旗には鎌とハンマー、我々のソビエトが掲げた旗は鎌と斧です。なぜなら中国の井岡山の農民は薪を切る斧を見たことがあるだけで、ペテルブルグの大工場の労働者が使うハンマーを見たことがなかったので、労働者階級の象徴であるハンマーを中国の農民が使い慣れている斧に描き替えたのです。

主権の目的は一人ひとりの  
公民権を守ることにある

加々美 先ほど劉先生がおっしゃった普通中国人は個人の自我意識がないということですが……

李 ですから、中国の民主は人権を基礎としなければなりません。私が今年まもなく書くつもりの方の文章中の第一の問題はほかでもなく、人権は主権よりも高いという命題を提起することです。主権の目的はつまり一人ひとりの公民権を保護することです。

劉 しかし中国の庶民は憲政憲法に対しては、清廉な役人に期待するほど興味がありません。中国の人権は個人意識が欠乏していて、個人が皆グループにくっついていて、例えば以前の中国の単位制のようにです。

李 ですから、中国は第一に人権を言わなければなりません。しかも自由主義か個人主義を実現しなければなりません。あの孔子の学説は、もし今の言葉で言うならば、基本的には集団主義です。

劉 八〇年代には西洋の人文主義思想についての紹介がたくさんありました。現在も多くの哲学をやっている人が個人を研究していますし、それに本も出しています。これは中国哲学の分野では新しい現象です。ですから、人々も徐々に目覚めていくと思います。

張 これは市場経済と様々な経済要素の発展につれて、多種の外来思潮の影響の下に現れた多元化の傾向の具体的表れです。

劉 これは以前なかったものです。  
李 しかし私はまた言わなければなりません。

せんが、現在啓蒙を行う条件は「五四」の時より劣っています。進歩はあったかありません。ただしこれもかなり言いにくい。何故かなり言いにくいのか、それは分析しにくいからです。例えば三月五日は中国で現在でも一つの印象を形成していて、それは消費者の権利の日です。この観念は我々の過去にはなかったもので、五四時期にもありませんでした。

#### 人権法と物権法

張 現在ちょうど二つの法律が制定されつつあります。一つは物権法で、つまり私有財産を含む合法財産の権利の保護です。中国はなんとも公有財産が多いですから、この中のまず最大の意義は私有財産をはっきり認めたことです。続いて人権法をやります、もちろんこの人権法は必ず大きな修正と修飾を行わなければなりません。

李 おそらく修正して全く人権がなくなるはずですが。

張 ですが、私はそれが変化の過程だと思っています。次第にその内容は充実するは

ずです。

李 最後に共産党はマルクス主義を信じ、マルクスはまたヘーゲルを信じました。ヘーゲルの弁証法には三条の規律がありました。スターリンによって四条に改められ、毛主席はまた一条にまとめました。

張 つまり対立統一法則（定立反定立綜合—訳注）です。

李 量の変化から質の変化への問題です。私はやはりこの点は信じています。

張 私も信じています。

李 あなたがおっしゃる人権法というものですが、およそ現在決まっていることは、最後の一日で全く覆されるはずですが、人権の面で人々の意識をちょっと高めはしました。

張 それは少なくとも形式的には人権の地位を確立しました。

李 ただ朝鮮民主主義人民共和国のように、何もかもがめっちゃめっちゃになるかも知れないことに注意しなさい。

張 魯迅が言っていた染料の壘ですね、何か新しい名詞が中国というこの染料の



壺の中に入るとすぐに別の色に染まってしまう、真つ黒い固まりになって、変質してしまう。

### 「新自由主義」とは何か

加々美 私はやはりポストモダン派の思想の影響について、特に中国思想界に最近現れた新自由主義現象について話したいですね。

李 新自由主義ですか。あなたに言いませんが、この「新」の字は誰が自由主義者に加えたのでしょうか。新左派です。朱学勤や、徐友漁は、新自由主義と言われますが、彼らは自由主義を倒すためにこのことばを使っています。いわゆる自由主義は、中国ではすでに毛主席が徹底的にだめにしてしまいました。九〇年代末に最初に自由主義を新たに打ち出したのは、ほかでもない私なのです。二人目はいませんでした。

劉 あなたは北京大学の伝統は自由主義であるとおっしゃったのではないですか。

李 ええ、あれ以後ですね。現在、朱学

勤はまだしきりに言っていて、自由主義が水面に浮かんできたとは、李慎之のことを指しています。ただ彼らは現在、八〇年代に語った人がいたとも言っていますが、誰であるかを挙げるのができません。なぜならばこの自由主義は中国ではとくに腐ってしまったからです。

張 毛沢東が『自由主義に反対する』を書いて、「文革」時期には毎日自由主義を批判していたからです。

李 私は「新自由主義」という語を使ったことがあります。現在彼らが「新自由主義」をかかげ、打撃を加えようとする対象は李慎之ではなく、暗に厲以寧らを指しているのです。事実厲以寧も自由主義を言ったことはなく、全くこの語を打ち出したことがないのです。

張 経済学者は主に経済の上で自由な市場を主張します……

李 ただし新自由主義者も厲以寧を普通の経済学者とは見ておらず、まずは彼を賄賂をむさぼる悪役人と見ています。現在までのところ、「新自由主義」に適切な定義を下した人はいません。例えば中国

の『国際問題』という雑誌に、ラテンアメリカはいわゆる新自由主義に属すると考える人がいて、この名詞には整理して手がかりを出した人が一人もいないのです。

張 ただラテンアメリカは本当に心配です。私はとりわけ中国のラテンアメリカ化を心配しています。理論に頼ることは、ラテンアメリカから出てきました。現在ラテンアメリカはさまざまな政治経済形態で、無政府主義もあれば、専制主義もあります。専制主義は専制しきれなくて、無政府主義は氾濫しています。

### 立憲政治の民主

李 中国の立憲政治の最大の問題は、中国には現在憲法学がなく、はなはだしきは憲法学者さえいないことです。今日の『人民日報』に一文があり、現在この問題がすでに皆の関心になっている現れであるとも思いました。

劉 中国は建国五〇年以来、初めてこの問題を出して討論しました。一か月余り前に、私はある会に出席し、公と私と、

中国社会の変遷との関係を討論しました。しかも討論はとても盛り上がり、小さな会議に三十余りの論文が提供されました。人々のこの問題に対する考察がすでに久しいことを反映しています。

李 中国の憲法には何の権威もありません。毛沢東はもともと全く憲法を制定しなかつたのです。あなたは御存知ですか。スターリンが我々に作るように求めたのです。私は平和的な転覆（憲法改革—訳注）を主張したのです。なぜ憲法問題を打ち出そうとするのでしょうか。

胡錦涛は中央政治局の会議を主宰し、みんなに憲法を学習させようとしたからです。これは共産党が政権を取って五十年余り、あるいは憲法が成立して四九年来初めてのことです。中国は「立憲政治の民主」を実行すべきで、現在私を知っている一部の昔からの同志、開明派は皆この見方に同意しています。これはおおむね共通認識になりました。私が特に恐れているのは、朝鮮民主主義人民共和国のようないわゆる「民主」の出現です。皆が民主に賛成しますが、どのような「民

主」もあるのですよ。

### 党内民主について

李 最近李鋭が手紙をよこし、党内民主を提唱していました。まず私は賛成ですが、ただ私の思想は彼とは反対です。現在多くの昔からの同志が皆党内民主の実行を主張しています。

劉 あなたの主張は。

李 言うてあげましょう、党内民主はあり得ません。はつきりと言うと、もし民主の社会がなければ、原則的な民主はなく、その流れはなく、その思潮がないならば、党内民主はあり得ません。例えば李鋭と私の関係はとても良いと言えますし、私たちは互いに尊重しあい、深く語り合えますが、私に何を民主と呼べるのかを話してくれることは本当にないので、さらに于光遠もいます。彼らは皆年が若く、当時最も先進的なマルクス・レーニン主義を学んでいました。

### 「死んでも悔い改めない」マルクス主義

劉 彼らは皆数学・物理学・化学を学んでいた知識分子で、あなたの背景とは違っています。あなたは比較西洋化でしたね。李 精華大学物理学部一九三六年卒業生の中で、光遠が一番でした。

劉 しかも彼はキュリー夫人の研究生になれたかも知れなかつたそうですね、結局ならなかつたけれど。

李 だから彼は自分に対する自信がすごく猛烈です。彼は私に十年前、自分は「死んでも悔い改めない」と印鑑に刻んだと言いました。この「死んでも悔い改めない」とはどういう意味なのか、走資派か、と言いました。すると彼はそうではない、「死んでも悔い改めない」マルクス・レーニン主義だと言ったものです。

張 そうです。彼の意図は私にはよくわかりません。彼は何度も言ったことがあります。「私は本当のマルクス主義者で、真のマルクス主義者は私のようにでなければだめだ」とね。

## 所有制改制

李 この啓蒙は、歴史の論理から言うところ、進むに違いないと私は思います。これは私にちよつと自信を与えてくれました。しかし裏返して中国の現状を見るとですね、また非常に自信を失います。

張 私はあなたよりちよつと楽観的です。なぜならば結局もうグローバル化や情報化の時代に入っているからです。二つの要素があることはとても重要です。一つは、どうであれ中国の経済はすでに市場化・国際化に邁進していること。もう一つは、すなわちITの普及です。これは本当にすごくて、どうしたって万里の長城よりすごい。

李 では、お尋ねしますが、それらは「新左派」のようなものを防ぎ止めることができますか。

劉 そのことはそんなに考える必要がないと思います。現在は経済の実際の動きを見なければなりません。例えば中国はもともと「私」を論じれば、すぐに顔色が変わります。私営企業家が入党できな

いのも、鍵は「私」という文字があるからで、私有制を憲法に書き加えることもとても難しい。私は先ごろ蘇州へ行つて、ちよつと市委員会書記の接待を受けました。聞くところによると蘇州は今年の年末前に、大部分で私有化を実行する予定であるとのこと、私はその人たちに、

あなた方は年末には私有化するそうです。がとたずねましたところ、その人は、そうですね、国営企業は二〇％だけ残り、八〇％の国営企業はみんな売れるつもりですと答えました。同時にその人は私の言葉を訂正して、それは「私有化」ではなく、「制度を改める」のだと言いました。結局のところやはり「私」という字を回避するのです。

張 さらに「民営化」という言葉を使います。些か文字ゲームのようですが、妨害を減らし、心理的障害を解くことができます。

劉 これは実際はやはりその動きがあることを説明しています。私が思うに、中国の力は知識分子の口やかましきにあるのではなく、重要なのは実際の動きで、この方向に向かっています。

## 中国社会の形態変化

李 私は試験的な予言もしたことがあります。唐徳剛という友達がいる、彼は一八四〇年から中国は形態を変化させ始めたと言います。この点では私は彼に敬服



しました。彼の見識は遠大です。彼の形態変化の完成には二百年必要で、五十年や百年ではないと言うのです。百年はいつかという二〇四〇年です。今年から三十七年後、二一世紀です。

劉 これは鄧小平の見積もりとほぼ同じです。

李 鄧小平は完全に経済だけを述べました。唐が言っているのは、中国は民主国家に変わろうとしているということですから。改革開放後の二十年と比べると、三十七年は二倍の時間を経るので、実現できるはずで。

張 あるものは変化がとて早いと思えます。例えば毛沢東がまず「四つの近代化」を打ち出しました。それは一九六〇年代の困難な時期でソ連の『政治経済学』第三版を読んだ時、書き入れに提案したもので、当時彼は中国社会主義制度はすぐれているので、政治の近代化の問題はなく、ただ工業・農業・科学技術・国防の近代化をする必要があると思っていたかも知れません。鄧小平になってまた出てきて、新たに「四つの近代化」を打ち

出しました。八〇年代後半、私が『社会学研究』を主編していた時、一人の青年の書いた文章を発表しました。それは「四つの近代化」の提起の仕方が充分でないというものでした。

李 「四つの近代化」は「二つの近代化」を欠いている。

張 中国の近代化の核心は政治の近代化で、人の近代化です。現在上も下もすでに徐々に密かにこの見方を受け入れています。「四つの近代化」を提起する人はもういなくなりました。現在我々は発展理論を語り、近代化を語ります。それは経済・政治・社会・文化の四大柱を包括する系統的な工程を指します。これは個別から特殊なものへ上がって行き、その後また一般的な認識に上がっていく過程です。「個別」の指しているものは、もともとは工業化を言っていました。それから「四つの近代化」まで上がったので、特殊な四つの具体的な分野と見なされるようになりました。ただしあなたが本当に近代化の話をするならば、少なくとも経済・政治・社会・文化の四大柱か

らなる系統的な工程が問題です。

### 中国内外の民主の道の比較

加々美 現在中国共産党の党員の数は六千万人を超えています。ある時日本人学生がネット上の広告で、次のような広告宣伝を見たと言いました。それはある中国国内の会社が職員を募る資格の中で、共産党の党籍が必要だという条項です。

張 中国は大きいですから、奇妙極まることばかりです。

劉 この例は代表的なものではありません。李先生、社会民主があつてこそ、本当の党内民主があるというあなたの考え方はとても良いと思いますが、理想主義すぎます。なぜならば現在存在する状況下で、あなたは何を用いて社会民主を押し進めるのでしょうか。

李 党内民主はありません。私は党内民主があることを全く否定します。

劉 知識分子だけにたよってはだめで、党内の開明派にたより、社会民主を押し進めなければなりません。

李 何にたよるかですか。最高指導者にたよる、最高指導者の思想の変化です。社会の矛盾が最後まで来た時、我々の中国は比較的良好な道を歩めます。中国と比べるとに最適なのは日本ではありません。もちろん日本も比べられますし、韓国もそうですが、比較するのに最適なのは台湾で、二番目はソ連です。中国の民主化ですが、すなわち内部政策の矛盾が力の集団の形成に発展し、当然やはり毛沢東が言った、矛盾が一定程度まで発展すれば、そこからすぐに中間突破するということではなければなりません。最も簡単な言葉で言うならば、すなわち「ソ連の今日がまさに中国の明日である」ということです。私の文章は公開していて、五〇年代にこの言葉は毛沢東の指導の下に流行ったものです。先ほど言ったように、国民性は制度が形成するものですが、制度が改変してから……

張 それは新しいものを作り上げることができません。

李 その通りです。中国には一つの特徴があり、これは私は李沢厚の言い方に賛

成です。中国人には一条、イギリス人やアメリカ人と比べて理想主義がとても欠けています。中国人には高遠な思想がありませんが、中国人は細かく計算して、実際の利益をはじきません。この専制主義の束縛を取り除きさえすれば、——これは少し幻想的です——中国人は実際の利益の計算を通して、最後にイギリスやアメリカの人々とほとんど同じで比較的正規の民主の道を歩けるはずで、中国の民主は必ず二段階の歩みが必要です。第一段階は民主の枠組みを持つこと、第二段階は私はそれを充分にして全面的な民主と称します。どのような標準か。高い標準ではなく、今日のイギリス・アメリカ式の民主です。世界の民主は、本当に成功したのは二つの制度だけだということを知っておかなければなりません。一つはイギリス内閣制度で、もう一つはアメリカの大統領制です。フランスのドゴールと台湾の李登輝は訳の分からない総統直接選挙を行いました。総統直接選挙は憲法学では最もまずいものです。中国には現在憲法学が分かる人が全くい

ません。理想主義は理論上から言えば、非常に必要です。もしこれがなければ、中国は前進できません。私は毛沢東がこう言ったことを覚えています。あなたがもし群衆の後ろにつくことになつてしまつたら、あなたは臆病者だ。もし争つて群衆の前に出過ぎたら、あなたは慌て者だ。だから中国では少なくとも一步群衆の前に立つ思想が永遠に必要なのです。現在の立憲政治の民主の主張およびその提唱者は、私は皆知っています、新しいものはありません。

張 これは中国の自己探索によらなければならず、他の人が発見してくれるのにたよることはできないのです。

李 いや、現在江沢民は我々に新しいものを創造することを呼びかけていますが、私が今日話しているのは、すべて古いものを作り出すことです。私が敬服するのは張東蓀で、彼は二十数歳の時に中国は一九世紀の西洋を学ぶべきであると言いました。中国は一八世紀の西洋を学んだほうが、それよりさらに好いと、私は思います。

## 民主派について

加々美 先ほど私が言いましたように共産党は六千四百万の党員を有するような巨大で歴史上前例のない大きな党ですから、党内にはいろいろな要素があります。もしこの党の規模がこんなに大きくなかったら、党員の性質は比較的単一で純粹であつたかも知れません。しかしこのように大きな党では、あらゆる要素が皆中に入つて行きます。このように中に収めていゝものは多様です。しかし大変多くの党員に「自我」の觀念がないので、内容の多様性は多元性に発展できませぬ。多様性と多元性の概念は違います。ですから李沢厚は自分の文章の中で、中国文化の特徴は、あらゆる要素を皆放り込んで、それから一つの固定的持続的な枠組みを成立させる。この枠組みがすなわち中華文化の枠組みであると、提起しています。

を見つけましたが、つまり自己の権力を固めるといふことです。延安整風から彼はやりました。ですから中華人民共和国の歴史・中国共産党の党史はほとんどが毛沢東個人の歴史です。

劉 私は現在中国の党外の民主派の勇氣は党内の民主派に及ばないと感じます。また知識の上では党外民主派は優勢であるかも知れません。しかしこの優勢派は党内の民主派を頼りに話を出してきませぬ。

李 党内には本当の民主派はいませぬ。

劉 あなたがおっしゃつたのは、中国の党外にも本当の民主派はないということですね。

李 最後は利益に基づく衝突です。この利益衝突はいわゆる政治上の見解の衝突を含みます。政見は何の利益でもありませんが、自分がどうすれば最高権力を得られるかなのです。

### 中国には新憲法が必要である

李 中国の重要なことは、新しい憲法が必要だということだと思います。中国の憲法が一日として最も小さな権威さえ持たないのは、憲法を制定する時に毛沢東が全く制定したくなかつたからです。余地を残さなければなりません。何の余地か。すなわち中国の未来の民主派に前進の目標を与えることです。ですから私は中国の近代化の目標は民主であり、社会主義ではないと、言っているのです。社会主義は一種の制度として中国には定義があるからです。マルクス・レーニン主義が教え、共産党が率い、計画経済で、それに毛沢東の話がある、というね。毛沢東の話はとても簡単です。国体はプロレタリア専制政治で、政体は民主集中制であると。この制度はもう全く希望がありません、すでに失敗してしまつたものです。

劉 李先生、あなたの現在の観点は一年前と比べてすでに変化していると思いません。

李 どんなふうに変わりましたか。

劉 一年前私はあなたにお話しました。ある人があなたの文章である『風雨蒼黄五十年』を読んで私にこう言いました、

その人はあなた方、李慎之・干光遠・李銳を含みますが、皆補台派（政権を補佐する派—訳注）で、私たちは拆台派（政権転覆派—訳注）だと。彼らがあなたは補台派であると言っている私があなたに告げると、あなたは補台派だと認めました。

李 その通りです。

劉 しかし現在のあなたのこの考えは補台派と同じではないようです。

### 私の唯一の希望は すなわち平和的な転覆である

李 私の現在の唯一の希望は中国が平和的に社会主義政権を転覆すること、他に希望はありません。もし現在誰かが私に権力や資金をくれて、政党を組織させてくれるとします。私がたとえ二〇歳であつても、絶対にやるはずがありません。例えばアメリカが資金を出して政党をひとつ組織させようとしても、おそらくやる人はいません。それは最後にはやはりだめだからです。中国共産党は歴史的チャンスがそれを成功させました。しか

し成功してから多くの内部闘争がありました。毛沢東は権力をつかむことにかけては本当に天才的でした。毛沢東の天才は権力をつかむ上に表れています。マルクス主義を信仰することから最後にマルクス主義に対して思いのままにすることまで、彼が言ったことは何でもそうなのです。「張琢さん、あなたは何十%がマルクス主義ですか。見たところせいぜい三〇%位でしょう」。それであなたは三〇%のマルクス主義者なのです。マルクス主義は全く彼の手の中に握られていました。彼は言いたいように言いました。毛は最後には本当にめちやくちやでした。中国がもしまた毛沢東を出し、共産党を出して、現政権を覆すならば、きっと現在のこの共産党より、少なくとも今のところの共産党よりもっと悪いと言えます。中国には伝統、農民が反乱を起こす伝統があるからです。しかも現在の農民は先進的な生産力の代表でもありません。

張 全く代表ではありません。新石器時代に農耕文明が始まった時、農民は先進

的な生産力の代表であつたと言つてもよいかもありません。二千年余りの君主宗法専制社会で、農民はいつも王朝の専制社会の基礎と王朝交替の道具でした。資本主義社会に入った時、大多数の農民はすでに雇用奴隷に転落してしまいました。しかも最も悲惨なのは人民公社体制下の中国の農民で、手をこまねいて死を待つような状況の下でも、まだ毛沢東の恩情は天より高く、海より深いと感謝していたのです。

李 毛沢東は農民を本当にもてあそびました。ある一時期、共産党の最高指導者は労働者階級でさえあればなることができ、それが向中発・鄧発です。後に毛沢東が出て、少しずつ他の人を服従させました。毛沢東は梟雄でしたから、マルクス主義は彼のために用いられ、このことを彼はかなり自覚していました。ですから、もし我々がいま平和的転覆をやらなにとしたら何をしますか、武装革命をしますか。できません。やれば必ずずいことになります、もつとひどいでしょう。張 暴を以つて暴に易えるのは、絶対に

だめです。

李 「以暴易暴」のこの四文字は伯夷・叔齊が言ったものです。最近では、私の『風雨蒼黄五十年』の中で言った「以暴易暴」です。現在共産党を蒋介石と交替させて「以暴易暴」と言えるならば、それはとても大きな進展といえます。もともと天子は聡明なのですから。

張 これはやはり郭沫若の言った中国の農民蜂起で、「これに取って代わる」主義です。

李 「王侯将相寧ぞ種有らんや」なわけ、彼が反乱を起こしたのは帝王・諸侯・將軍・宰相になりたいからにはかならず、新しい思想はありません。

### 日本の西洋化

李 日本はアジアで確かに特別な民族です。明治維新後、日本の精神は全般的に西洋化し、当時は、日本の人種を改良しようという思想さえありました。

張 あれはあの時の進化論の影響です。  
李 しかしあの衝動は悪くなかったのです。

劉 時には些かの衝動が先に立たなければなりません。

加々美 実際には日本人の精神文化にもたくさん欠陥があります。一九八〇年以後、日本の若者はもうデモ行進をする人がいなくなり、反米活動もほとんど見かけなくなりました。これは日本の第二次世界大戦敗戦後、先ほどおっしゃったマッカーサーの行った徹底的な民主改革の影響を受け、私が先ほど述べた奴隷主義を生み出したことあるいは崇拜……

李 外国を崇拜して、アメリカに媚びることですね。

加々美 そうです。深く厚い自己の民族精神の基礎が弱い——基礎はあることはあるのですが、とても薄く弱くなってしまうので、その後にはポストモダンの思潮の影響を受けて、社会運動が消えてしまったのです。これは一九七六年に始まった、——ベトナム戦争終結後の年で、それから今日までもう二七、八年がたちました。  
李 一九七六年は中国文化大革命が終わった年です。

加々美 そうです。同じ時期です。今日に至るまで、まるで日本は何の社会思潮もなかったかのようにですが、しかし実際は多様化していて、各人がそれぞれの考え方を持っていますが、多元性への発展がなく、論議をくぐって統一化する思想がありません……  
張 民主は多様性を認め、多様性を尊重します。

### ポスト工業化とポストモダン

加々美 現在、中国の若い世代でもポストモダンの思潮の影響を受け始めたようですね。

李 私はこのポストモダンという言葉を非常に疑っています。この言葉は全く通じないと思います。ポスト工業化という言葉は通じます。このポスト工業化は誰が発明したかという、タンニール・ペールです。私はタンニール・ペールと一度話をすることがありまして、私は彼のポスト工業化には同意しました。ポストモダンではありません。  
劉 ポストモダンは現代化の中にある一



種の思潮です。

李 違います。しかしそれらには一つの特徴があります。ポストモダンには確かにアンチモダンの意味があり、現在の中国には必要なものです。あるいは国際上すでに主流になった近代化はアンチです。このアンチは彼が見たところでは道理があるようですが、我々が見たところでは全く道理がないと言わべきです。

張 多くのものがまたブレモダンに戻り、あるいはそれはかつてブレモダンを超えたことがなかったという。たったそれだけのことです。

### 多元性と「合わせても同じでない」

加々美 多元性のことを言えば、一つ一つが皆相互に論議し監督しあい、これがあるので、問題が発見されます。多様性はすなわち分散するものなのです。

李 この翻訳もまた良いでしょう。「二元」は一つの単位で、多くの元があり、とてもたくさん頭の頭が出ようとします。中国には現在、政府当局の民族哲学と言えるものがあり、「合而不同」を提起しまし

た。私は天則（北京天則経済研究所を指す）で、本当に「合而不同」を実現しようとするれば、民主がなければ実現できないと話しました。もし独裁であれば絶対に合而不同が現れることはできないと話しました。私は現在中国人と日本人はどちらも東洋の民族という関係があるけれど、特に懺悔が欠けていると気がつきました。中国人は文化大革命をやりましたが、誰が懺悔しましたか。いますがとても少なく、とても浅い。

劉 現在ネット上で、中国人にはなぜ懺悔意識が欠けているか討論をしています。これはすなわち中国の民族性の問題なのです。

張 おそらくこれと中国に宗教がないのとも関係があります。

李 日本も同じです。

張 西洋の宗教の懺悔の習慣がありません。

劉 東洋の多くの国家は事実皆懺悔の習慣がないのです。

李 西洋もはっきりとはしていませんよ。私はイスラム教に対して現在でもあ

まりよく分かりません。喬冠華が私にこう言いました。「私には中東問題は分かりませんし、イスラム教についても興味はありません」と。私は彼のように話すことのできる外交官は現在いないと思います。学問が充分ではないのに、むやみにほらを吹く者が少なくありません。ですから中国人は「文化大革命」をやりに、自ら苦悶したと思います。これも私の『風雨蒼黄五十年』の中で述べたことですが、日本人が罪を認めないのを罵るのに、中国人は自らどんなことをしたかあえて語ろうとしません。政府が全く記憶を消してしまつたのです。

張 このレベルでは東西文化の比較ができ、この東洋の伝統には中国が含まれ、日本が含まれ、朝鮮が含まれます。

李 しかし韓国は二人の処分に対して、巴金の懺悔より多く突出しています。なんと慮泰愚と全斗煥とに死刑判決を出し、しかも全斗煥夫妻は二人とも山奥の古寺で三年間辛い目に遭いました。中国ではこのようなことを全く聞いたことがありません。宋の徽宗・欽宗の亡国の君

主を除いてです。全斗煥に対する摘発処分に私は大変敬服しています。韓国の民族性の悪いところは極端に走りやすいことで、良いところはかなり徹底的であることです。私は中国の民主を見て、最も良いのは将来韓国と比較することだと思います。

張 ただ韓国人は大変見識が狭いとも思いますが、日本人よりもさらに狭い。もちろんもっと狭いのは台湾人です。

李 一つは半島、一つは島国。

張 地理環境の影響を認めないわけにはいかないのです。その交流の範囲と広さは、確かに地理環境の影響を受けます。

加々美 個人の経験の差も見なければならぬでしょうね。

張 それはもちろんです。とりわけ今日の国際化・グローバル化・情報化時代においては、異なった民族の交流は拡大し、相互に融合し、共通性が増します。ただ個人差はとて大きいのです。一九世紀のドイツの進化論者ハイカーは「人と人との差は、人と猿よりまだ大きい」と言いました。この言葉は相当高い水準にあ

ります。ですから日本人と日本人は違いますが、韓国人と韓国人は違います、台湾人と台湾人も違います。私が知り合った台湾人には思想が開けている人もたくさんいます。私がここで言っているのは「概数」で、一般民衆の普通の気持ちを指し、純粹に個人の印象です。

加々美 そうです、そうです。

張 時間が来ました。我々の訪問を受けていただきましてありがとうございます。

(二〇〇三年三月一四日)

(劉肖文〓整理、張琢〓校訂、六鹿桂子〓邦訳、

加々美光行、松尾肇子〓監修)